

## 16. C | C のみに欠如を認めた 1 症例

○井植 浩雄（福岡市・開業）

乳歯の先天的欠如については、数多くの報告があり、欠如部位は下顎切歯部に多くまた、発現頻度は 0.1%～0.4%と報告されている。一般に、先行乳歯に欠如を認める場合、その後継永久歯々胚も同様に欠如することが多いと言われている。

今回、演者は、上顎両側乳犬歯が先天的に欠如しているにもかかわらず、その後継永久歯、すなわち上顎永久犬歯と思われる歯胚が正常に発育している 5 才の女兒について報告する。

患 児： ○沢○ぐ○  
 生年月日： 昭和55年 1月13日  
 初 診 日： 昭和60年 4月13日（5才3ヶ月）  
 主 訴： 齲蝕の治療，上顎空隙歯列の相談  
 家 族 歴： 特記事項なし  
 既 往 歴： 特記事項なし  
 現 病 歴：

出生後12ヶ月目に  $\overline{A|A}$  が萌出し、3才半頃に現在の歯種の萌出を完了した。現在まで、歯科受診の経験はなく、外傷、自然脱落の既往もない。

口 腔 内 所 見：

C|Cを除く歯牙が、ほぼ正常な位置に萌出している。歯肉軟組織は、上唇小帯が肥厚し切歯乳頭付近に付着している。C|Cが欠如している部位の歯槽形態は、尾根状を呈し、その他は正常である。歯列弓は、上下顎共に空隙歯列弓で、正常歯列と同様に左右対称を示している。咬合状態はほぼ正常で、 $\frac{BA}{A} | \frac{AB}{A}$  に著名な咬耗を認めるが、 $\overline{C|C}$ には全く咬耗を認めない。

レントゲン所見：	後継永久歯々胚	7 6 5 4 3 2 1		1 2 3 4 5 6 7
		ED BA		AB DE
	現存乳歯	EDCBA		ABCDE
	後継永久歯々胚	7 6 5 4 3 2 1		1 2 3 4 5 6 7